

俳句の学習を初めて、7年目になります。2015年7月に、縁あって、周東文化協会の「祖生俳句会」(以下、祖生句会)に入会しました。以来、毎月5句の句作を重ね、この4月までに410句の駄句、怪句、迷句を作り出してきました。その悪戦苦闘ぶりを紹介しながら俳句17音(上5、中7、下5)の愉しみを共有できたらと思います。

季語(季題)

季語は俳句、連歌に用いられる季節を表すために、詠み込むこととされた言葉です。明治以降に使われ始めた用語です。江戸時代までは、「季の詞(キノトバ)」「四季の詞(シキノトバ)」などと云われていました。季題とも云われます。

季語は、それを詠み込む発句(挨拶句)によって、座に集う連歌仲間に、「共通の理解の場(仮想空間)」を作ってきた歴史があります。同時に、長い詩歌の伝統の中で培われてきた、日本人の美意識が詰まった文化遺産と云えます。

この季語を集めて、季語の解説と例句を施した書物が「歳時記」です。俳句づくりには欠かせない書物です。類似のものは、平安時代の「能因歌枕」、室町時代の里村紹巴(シヨウハ)(1525?~1602)の連歌論書「連歌至宝抄」(1627)などありましたが、江戸時代の野々口立圃(リュウホ)(1595~1669)の「はなひぐさ」(1636)、北村季吟(キギン)(1624~1705)の「山之井」(1648)に始まり、貝原益軒(1630~1714)刪補の「日本歳時記」(1688)、曲亭馬琴(1768~1848)の「俳諧歳時記」(1803)、藍亭青藍増訂「俳諧歳時記栞草」(1851)、明治以降、高浜虚子の「新歳時記」(1934)等と続きます。その後、俳人らによって、改訂、増補などを繰り返しています。

現在は、「角川大歳時記」「現代俳句歳時記」「合本俳句歳時記」「ホトトギス俳句季題便覧」などがあります。「角川」「合本」歳時記は、季語を「春」「夏」「秋」「冬」「新年」の季節別に分け、それぞれ、「時候」「天文」「地理」「生活」「行事」「動物」「植物」の分野別に整理しています。「現代」歳時記は、「無季」を加え、分野分類も若干異なります。「ホトトギス」歳時記は、「月毎」に整理しています。

季語は一句に一つが原則ですが、複数の場合(季重なり)も例外的にあります。

目には青葉山郭公初鯉

山口素堂(1642~1716)

「青葉」「郭公(ホトトギス)」は三夏、「初鯉」は初夏の季語。角川大歳時記は「初鯉」の例句として掲載しています。

特別な季語

月々に月見る月はおほけれど月見る月はこの月の月 詠人知らず

この歌のように、「月」は一年を通して見れるものですが、俳句の約束として、秋の季語となっています。従って、秋以外は「春の月」「夏の月」などと表現することになります。春の「蝶」、夏の「虹」「夕焼」などもこれに当たります。

見出し季語と傍題(関連季語、子季語)

「蓑虫」(三秋/動物)は見出し季語です。見出し季語の別称や形を変えたもの、また、同じ季語として中に含まれるものを「傍題」と呼びます。「蓑虫」の傍題は、「鬼の子」「鬼の捨子」「父乞虫」「みなし子」「親無子」「蓑虫鳴く」「木樵虫」です。

「枕草子」43段に「虫」の話が出て来ます。「蓑虫は鬼の子。親が疎ましく思い、

汚い衣を被せ、“秋風の吹く頃には戻る”と云って、逃げた。子は、その言葉を信じ、“ちちよ、ちちよ”と儚げに鳴いている」と云う一節があります。以来、詩歌の世界では、蓑虫は鬼の子、みなし子、鳴くものとされてきました。

蓑虫の音を聞きに来よ草の庵
我等の世蓑虫鳴かずなりにけり

芭蕉
加藤楸邨

四月句会は対面

2022年4月句会は、投句締切り11日、開催は14日の予定でした。
兼題は、1)花冷え(ハヒエ) 2)逃水(ニゲミズ) 3)猫の子(ネコ) 4)菜の花(ナハナ)
いずれも晩春の季語、選者は和生です。

3月22日に全国のまん延防止等重点措置が解除されましたが、感染者は増減を繰り返し、第7波が懸念されている最中、句会は開催されました。

11日締切日に以下を投句。

- 1)花冷えや背筋のぼしてみる万朶
- 2)逃水や追いつ追われつゆく一世
- 3)猫の子やノラとはならず吾の家人
- 4)菜の花や挿して仏間のお灯明
- 5)霾やその日その日の凡と凡

14日18時、祖生公民館にて、マスク着用、ソーシャルディスタンスを担保し、スタート。都合により、富美子さん欠席。

披講者(和生)一読後、各自選句。和生の選句は以下の通り。

- No. 3 点眼のぼとりと一滴花の冷え
No. 4 猫の子の固まりひとつ峡の駅
No. 10 菜の花や恋の予感の空の青
No. 18 逃水や魔女は人影写しとる
No. 23 晴天の中州膨らむ花菜かな

披講、名乗りの結果、3点以上は1句。

点眼のぼとりと一滴花の冷え 富美子

その他2点句が7句、1点句が9句という結果でした。
その中の和生の3句。

逃水や追いつ追われつゆく一世 猫の子やノラとはならず吾の家人
霾(ツチル)やその日その日の凡と凡

5月は薫風?

次回兼題は、1)薄暑(ハクシヨ) 2)粽(チマキ) 3)風薫る(カゼカカル) 4)新緑(シンリョク)
3)は三夏、その他は初夏の季語、選者は石峰先生(2点句3句の次点者)です。
5月から夏の季語になります。「風薫る」は初夏の涼しい風がゆるやかに吹くさまを云うそうです。初夏の風と形容していますが、季節区分は三夏です。
コロナもウクライナも「風薫る」季節となることを、願って止みません。

参考文献 祖生俳句会資料 日本大百科全書 ブリタニカ国際大百科事典
百科事典マイペディア 広辞苑 明鏡国語事典 角川大歳時記

最高点句

点
眼
の
ぼ
と
り
と
一
滴
花
の
冷
え